

| | |
|------------------|---|
| Title | Emil Reich氏の史学研究法 (第三回) |
| Sub Title | |
| Author | 田中, 萃一郎 |
| Publisher | 三田学会 |
| Publication year | 1909 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.4 (1909. 5) ,p.411(1)- 442(32) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 論説 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090501-0001 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

廣告主御注文の節は三田學會雜誌廣告に依る御附記を望む

營業案内

徽章賞牌

金銀木杯七寶

其他美術金屬各種

期日正確、品質純良、技術精巧、價格低廉

右之通り御注文ニ應ジ調製御上納申ベク候間多少ニ不拘御用向仰付被下度願上候

東京麴町區飯田町四丁目十三

諸官省各學校御用赤田末吉

前付ノ四

寫真特別大割引

手札形二枚組 金貳拾錢より撮影

其外各種寫真大奮發特別大割引を以て上等に撮影仕候間陸續御來館の程奉希候團體撮影も大割引仕候

明治四十二年二月
よるもウツシマス出張も致します

芝區三田四國町二番地四號
(正則英語學校分校前)

東海林寫真館

電話新橋四六三四番山下へ

三田學會雜誌 第一卷第四號

論說

Emil Reich 氏の史學研究法(第三回)

四

田中萃一郎

歴史上の要素は以上の五種であるとして扱之に關する知識を索め得可き資料は何であるか。資料は即ち廣義の史料で年代紀、日記、傳紀消息、記録、證書、證文、法律、碑銘、古泉、印章等皆直接の知識を與ふるものである。歴史家が先づ第一にこの直接の史料を研覈せねばならぬことは云ふ迄もないが、併し如何に之が研鑽に骨を折つても之れ丈で歴史家の能事了れるにあらずとの點は殊に主張せねばならぬ。勿論この直接の史料がその關係せる事件人物の真相を遺憾なく寫し出さばこれ

Emil Reich 氏の史學研究法(第三回)

2
が拔萃は臆て良史と認めらるゝであらう。併し史料は何れの立脚地から見ても最も缺點のあるものである。上古でも中古でも極めて不完全なるの常で本文は誤脱がなくとも記載の事項が薩張り要點と關係なく必要な事實は却て記載洩れとなつてゐる。但し教會史殊に舊教史の場合の如きに於ては史料が極めて詳備であるから所動的に忠實に之にのみ拘泥して良史をものし得可しと思はれぬでもない。蓋し教會を組織せる僧侶は事實去勢された人間に過ぎなから、その行動は文書記録に詳述し得たのである。併し人間の希望熱情に満ちた男女の行爲は乾燥無味な古文書で如何して適切に現はすことが出来やうぞ。故に教會史上の批判の原則は之を爾餘の國家の歴史に適用することは出来ぬ。同一の理由でアテネ史の研究法は之をスパルタ史に應用することは出来ぬと云ふのはスパルタ人の公文書はアテネの公文書よりも遙かに事實を示してゐるからである。教授ヤンセン、バートルその他耶蘇會徒の手になつた史籍を繙いた人はこの評論の意義を酌み取ることが出来るであらう。這般の史籍は史料には忠實であるが時代の精神をば全く誤解してゐる。例へばヤンセンの宗教改革を攻撃するや一々そ

の出典を示してゐるがかゝる遣り口では到底大運動の眞精神を解することは出来ぬ。幾百の拔萃を擧げてルッターの私行を攻撃してもその高尚な一篇の讚美歌に遣ふてはグウの音も出ぬのである。

3
資料の解釋説明こそは歴史家の最も重要な而も最も困難なる任務である、その任務の容易ならぬは史料の多くが或は故意に或は無意識に假託してゐるからで、愛國心宗教上の僻見、蒙昧、自負、怨恨等のあらゆる動機から事實の眞相を隠蔽してゐるのである。故に假託と事實とを分拆するのは極めて困難でその不可能なる場合さへ少からぬ。史學に於ては爾餘の事實の研究の何れよりも疑惑を以て之に臨むことが必要である、併し疑惑を懷抱してもそれのみでは良史家とはなれぬ。希臘羅馬の歴史に加つた歴史上の疑惑、即ち事體その物よりは寧ろ記事の上に加へた疑惑は概して言語上の戯れに過ぎぬ。例へば羅馬七王の實在を疑ひポエニ戰役以前の羅馬史を信じ難しとなし、出埃及記の事實を否定するが如き即ちこれである。疑惑は須らく心理上に於てす可し言語上に於てす可からずである。羅馬初代諸王の紀年が捏造したものであつても、ロムルスの誕生、養育、事業に關する

4 傳説が他の民族の間に行はるゝところを繰り返したに過ぎぬとしてもこれだけでロムルスの歴史的存在を心理上から打ち壊す譯にはいかぬ。唯種々の古傳がシーザー若くはナポレオンに於けるが如くロムルスに傳會されたと云ふことを證明するに過ぎぬ。初代羅馬の紀年が捏造であつても、これは史料に掲げてある時日が信ずるに足らぬと云ふ迄で、之に波及してある制度や主たる事實が虚妄であるとは斷じ難い。ハリカルナッスのデオメシオとリヴィウスとの記事とは矛盾も少からぬであらうが、さり迎羅馬初代七王の事蹟は全然その虚構に成れるものなりと斷ず可き心理的理由はない。史料の作者が不都合だからとて直ちに史料の事實を疑はんとするは純然たる言語學的研究法である。勿論實際社會に於ては虚言者の談話は侮蔑し去るの常であるが、史學の研究に際しては同一の原則を守るとが出来ぬ、即ち一々の場合に就て研究して見ねばならぬ。言語學者のうちで鏘々たるエフ・アー・ウォルフは研鑽多年純然たる言語學上の理由からホーマー時代の希臘人は文字を使ふことを知らなかつたと斷言した、併し歴史上から見ればこの結論は全く不當で殊にエー・エヴンスのクレイタ島の發見ありてより以

來到底支へ難くなつた。ウォルフにして若し心理上からこの問題を研究したなら埃及フェニキア小亞等でホーマーの出る千年も前から文字を用ゐた事實に照しホーマー前の希臘人は文字を知らなんだと斷言することは困難であらう。史料解釋の問題に附帶して彼の生物學形態學上の事實を説明するに於て主として採用するゝ進化説は歴史上の事實の説明に適用することが出来ぬと云ふ問題が起る。ダーウイン主義の研究法は最近四十年間著るしき成功を遂げたので、その末流のうちにはダーウイン自身が避けて居つた範圍迄をも包括して之に進化説を適用しやうとするものがある。進化説でもつて現在の社會學過去の歴史學に關係する大問題を解釋せんとした著述論文は或は通俗的に或は専門的に實に枚擧するに違あらぬ。ドレーパー、ルツェルノー、フォンヘルツルト就中ハーバート・スペンサーが進化説さへあれば人間歴史の經過を解釋するに充分であると唱道したので、今日では歴史も自然も共に進化で説明し得ると云ふ事を疑ふのは何か邪説の如く思はるゝ。進化説を歴史に應用す可しとの傾向の盛んになつたは一は一般の讀書人が自から歴史に精通せりと信ずるの結果である。堂々たる

6
紳士は理化學を知らぬとて耻辱とは思はぬが、歴史に就て妙に自惚があつて歴史が證明してるとか争ふ可からざる歴史上の事實であるとか云ふことを好んで口にする。その實眞の歴史の知識を有するものは極めて稀で最近の大事件に就ても信ず可きの知識を得たるものは極めて少數である。人間の自尊心愛國心は侮り難いもので、自國の歴史に就てはその真相を知ることが好まず、他國に就ては眞偽に係はずその事實を知ることが欲せぬのである。であるから面倒な研究は止めて進化と云ふ熟字を捉へて萬事を説明し去らんとするので制度の發達の如きは殊に進化の一語で明瞭に説明されてると思ふてる。併し歴史を眞面目に研究するものは進化説でもつて人間歴史の問題を眞に解釋し得可しとは信ぜない。ダーウィンの進化説は往古既に變態の生ぜしことを假定し生存競争遺傳等の力で結局その新形態を形成するの經過を説明するので、その當初の變態の生ぜし時は西紀前の四十萬年前でも將た四十五萬年前でも少しも之には頓着なく、又變態の個性を説明するの必要をも認めず唯々當初の變態が何處でか何時か起つたと云へばそれで進化論者の役目は濟むのである。然るに歴史家の注意任務は之と

7
正反對で歴史家は時の問題を忽諸に附せずして、何時變態の起つたかを穿鑿せねばならぬ。また變態が特殊の形式を具へたその理由を説明せねばならぬ。進化論者は十字軍は旅鼠鶴等の遷徙と其事情を同うし佛國革命は不平な人民の自然の進化であると説明し去るであらうが、歴史家は太古から自殺的遷徙を行ひ來つた旅鼠と十字軍の勇士とを同一視する譯にはいかぬ、何故十字軍が西紀一〇九六年に始まつて西紀一二七〇年に終つたかその事情を説明せねば歴史家は其任務を盡さぬものである。佛國革命に就ても同じ譯柄で、唯佛人が不平であつた爲めと云ふのみでは不十分である、何故佛人が暴君を戴いて居つた西紀一七六三年乃至七四年の當時に革命を起さぬで、何故狹量ではあるか誠實な新王の之に代り、英國に對して空前の大成功を收め、國內の状態も前二世代に比して遙かに繁榮を増して來た西紀一七八三年以後に革命を生じたかと云ふ問題を解決せねばならぬ。』進化學者と歴史家とはかくの如く根本から相違するので進化學者は當初の變態に就てはその起源と年代とを問はないが歴史家は之が解決をその本務とするのである。併し有機界の研究と歴史上の研究との大相違はこの點に止まらぬので

8 人間の歴史では一史實の諸要素を總計しても以てその成果に當ることが出来ぬ。即ち歴史の上では絶えず創造力が働いて居るから、假りに各要素の研究が行き届いても進化論の場合に於けるが如く創造力の臆説を無用とし難いのである。舊約聖書の冒頭に記してある創世の談は形式的に云はゞ不正確であらうが、表徴的には多大の意味を含蓄してゐる。世界の歴史は創造力の連綿として繼續せる一大戯曲であつて、而もこの歴史の主要なる要素はダーウィン流の研究法では如何ともすることが出来ぬ。進化論者は有機體とは之が諸要素より推定し得可きもので諸要素はその成果よりも小量と云ふことはないと言つて、下等な人間と關係なき有機體に於ても果して然るや否やは未だ立證せられたのではない。が兎に角人間の集て組織せる有機體では成果の全體を諸要素より推定することは出来ぬ。文學史宗教史を研究すると最もよく創造力の影響大なることを認めざるを得ぬ。如何に西紀一五二〇年乃至六〇年の間に成れる著作物に就て英語の諸要素を調べても之から後天的にシエクスピアの用語を豫測することは出来ぬ。獨逸の散文に於けるレッスینگの場合は更にその甚しきもので西紀一七五九年にその

9 「文學便りの公にされた以前の獨逸の文章とラオコーンの作者の文章とは雲泥の相違がある。宗教に就ても何故基督教が西紀前第二世紀にアテネに起らずして第一世紀にアテネに起つたか之を歴史的に説明するは至難である。これは創造方の生じた新現象であるから、舊教大僧派の法規を比較研究した人はその精神と性質との相違に氣附くであらうが、これは全くドミニック聖師とかイグナシヤス聖師とか云ふ新人物の創造力の相違に歸着するのである。レッスینگが獨逸散文の新體を創めたやうにイグナシヤス聖師は正僧の新派を創めたのである。この創造力の要素は歴史的人物によりて實體化されて現はるゝものであるが全く進化論者の研究範圍外にあるのである。自然界にありては人間以外又人物のあらゆる筈なく、自然科学者に取りては此の狐も彼の狐も同じとて、獅子群のうちには別にシーザーはないのである。最後に前にも述べたが如く相依相從的變態現象はダーウィン自身も進化論者の研究範圍外であると認めてゐるが、これは歴史家の米の飯で、相依相從的變態の心理上の關係を指摘するのが歴史家の發揮す可き本領である。

10 専門の進化説はかくの如く歴史上に於て全く無用のものであるが、唯漠然と進歩改善を意味する進化は如何と云ふに歴史家は之を認め得可きや否や未だ斷言し得ぬ。吾人は果して希臘人羅馬人より優れて居るかペリクルス治下のアテネとクリソグラント治下のニュー・ヨークと何れが人類の祝日であるか、吾人は希臘人の如く奴隸を使用せぬ、併しモールポロ公よりはエバミノンダス、カザール伯よりはテミストクルスを取ると云ふ人もあらう。兎に角僅に七千年間の歴史に對して倫理上善惡の批判を下すは早計である。これは歴史上の一時期に對しても同様で、歴史家は得て零細な史實に道德上の批判を加へ、讀史家殊に英人は歴史上の道德論を讀むことを樂むが、史實の倫理的批判は歴史家の主たる任務ではない。歴史家たらんものは倫理的説明を下さずして特殊の専門的説明を下す可きのである。チャールス一世の治下に英國に革命の起つたことを説明せんとする人は單に人民に不平があつたと云ふのみでは不十分である、民亂の不平に由るは通常のことであるから英國の革命(西紀一六四二—一六〇)と和蘭の革命(西紀一五六五—一六〇九)佛國の革命(西紀一七八九—一八一五)との歴史上の境遇の特殊の相違を指摘せ

ねばならぬ。之と同じく希臘の文明の悉く都市的國家に起れることを説かんとする人は單にこの都市的國家は文物の進歩と共に建てられたりと云ふのみでは不十分である、文物の進歩と云ふが如きは廣義に失するので、歴史家たるものは根本の事實に向てその他と異なる點に就いて特殊の説明を加へねばならぬ。希臘人は西紀前千年以前幾代となく、希臘并に附近の島嶼に住居つたが希臘に都市的國家の起つたのは西紀前千年以後のこと、而も先づ小亞に起り且西部希臘に何時もその數が少なかつた。かく希臘の都市的國家の問題を正確にした上で之に對して特殊の説明を下さなければ到底眞の歴史上の教を得ることは出來ぬのである。

11 さりながらかかる特殊の説明を下すには如何なる批判を史料に加ふ可きであるか。言語學的本文批判の方法は史的穿鑿の必要條件と認められてるが、本文批判の結果として發表された恆河沙も嘗ならぬ論文は多くは互に相矛盾してゐる言語學者は概して史料の眞價を鑑別するの明なく、ヘロドトに就ても一歴史家は之を以て講談師に過ぎずとなし一歴史家は之を以て歴史學の術と學とに熟達精

12 通せりとなすのである。併しかゝる缺點あればとて勿論本文批判は過去の眞事實を明ならしむるに大功があつたので、現代のペントレーやヂュ・カンジュの研究を等閑視するのは輕率である。その史料の本文を訂正した功勞は少からぬ、併し歴史は本文の辭句の上に現はるゝものでなく、眞相は數ば之を紙背行間に覓めねばならぬ。但しこれは言語學的批判の能くし得ざる處で萬有はニュートンにはその法則を洩したが王立學會には之を示さなんだと云ふ様に五十の言語學者を以てしても事實の要領を概括するとは出來ぬ。文書にのみ拘泥する歴史家は恰かも西班牙のフィリップ二世と等しく見做すことが出来る。フィリップ王は人物事態に頓着なく机上から實際社會を支配せんとしたので公文書を土臺とした政治は失敗に了つたのである。歴史家たらんとするものは本文批判の技倆よりは寧ろ各國の制度を親しく實見する必要がある。英國と佛國米國と獨逸と云ふやうに全く違つた國に淹留して之を研究しなければ歴史家に必要な他國の習慣制度文物を正しく評騭するの見識を養成し難い。歴史家の謬見の四分の三は歴史上の公平思想の缺乏に淵源するので、如何に古文書の研究に思を潛めたとして

その公平の念を起すとは出來ぬ。獨逸人は能く各國の歴史を撰定したが而も各國の國情を視察して崇拜の念を養成せねばならぬとも思はぬので何れも拙作である。その著作は歴史ではない、幾多の史籍を參考して成れる編纂物たるに過ぎぬ。地理學者植物學者動物學者と同じく歴史家も亦少くも二外國の歴史を研究した後でなければ何れの部分をも完全に研究するの資格を具へぬと云ふ可きである。前世紀にありて神話宗教風俗言語法律等の研究上比較研究法は多大の効果を收めたが、比較史學の研究は實に必要である。書齋的歴史は書齋的地理と同じく成立の望がない。抑も歴史は人間の感情によりて演出さるゝので譬掛椅子に凭れて冷靜に考究すると到底演奏者の眞情は解せられぬ。歴史家は法官ではない、歴史上の事件の根底に潛める感情の潮流に向て同情せねばならぬ、冷靜なる判斷は歴史上の眞相を洞見するの所以でない。歴史上の事件は激昂し易い感情的人民あるが爲に起るので大國民は必ずや之と同時に大罪人である、所謂善にも惡にも強い人民である。倫敦の新聞に掲げらるゝイースト・エンドの蠻行は南米若くば阿弗利加の野蠻地方の旅行記に記してあるよりは更に甚しいのである。

14 であるから歴史家たるものは須らく熱血男兒に同情す可し同情の念深きよりの失策は大に恕す可きである。

過去の時代を論評するには過去の立脚地に於てす可しとはモンテスキウ以來大に主張された點で頗ぶる眞理を含んだ言である。之れに反して現代を知て過去を解すと云ふた英人 *John Paulson* (1813-1844) の言も必ずしも棄て難く現代と痛痒相關せず社會の大勢を把握し得ぬ人は決して過去の事情を了解し得ぬであらう。勿論近代の状態を観察して得た思想を過去の制度事件に直に適用する時は大に誤解を來すことがあるが之を目撃し得可き現状と比較し對照せずんば他に過去を會得するの法はないのである。實際法廷で訴訟を争ふた人は學窓で書物を睨めてゐる人よりもガイウス、パピニアヌス等の精神を判然と會得し得るのである。抑も認識論は如何に入ケましくとも思想の起るのに官能印象を要するは無論のことである。故に歴史上の制度事件の直接にして完全なる知識を得るは不可能事である。シーザー暗殺に就てもペリクルス時代アテネ議會の討議に就ても直接之が官能印象を受くるとは出來ぬ。理論上のこの歴史の缺點を補はんとせば現在の

15 制度のうちで最も之に類似せるものを捉へて直接に研究し以て過去の制度の真相を推測するの外はない。疑もなく最も適切な實例を撰擇するのは困難で旅行せぬ學者は之を撰擇し得ぬ且又旅行したとのない人は修史の業に當るの資格がない。各國に旅行した人にして初めて實物印象を受け適切な類例を認め得るのである。但しこの政治上法律上社會上宗教上の事物に對する實物印象は歴史研究の必須條件であるがこの實際から得た思想を懷抱して歴史家は其論旨を説明して餘蘊なからしむるとが困難なので却て讀者の非難を受ける。理化學の新説は實驗を以て之を證明し得るが史學上の新説は之を立證する事が出來ぬ讀者に向て佛獨埃米英の諸國に五ヶ年宛滞留してから高評を賜へと云ふも無理な注文である。加之史實の心理的説明は極めて簡單であるから引證の多きを誇る博識家の侮蔑を受け易い。平凡な説と見做され易い。心理學の史學に於けるは恰かも動學の星學に於けるが如き關係で歴史の心理上の説明を現はすが爲に卑近な文字を用ゐるから淺薄平凡だと云ふのは恰もニュートンは世界の學生の熱知してゐる動學の事實を堂々たる星學上の學説としたとて嘲るやうなものである。

16

言語學的歴史家は少くも人間心理の一部面には通じてる即ち人心を籠絡するの術には通じてる。と云ふ譯は世人は多くアールア種族ヒタ民族とか云ふ文學には恐怖とか利益とか云ふ單純な事實よりも遙かに多大の意義を有してると思ふが焉んぞ知らん往古のヒタ民族はそのアールア種族なるや否やには頓着せなんだが恐怖利益の爲には大に左右せられたのである。

最後に歴史家はその論題を尊重し敬愛するの意なくば之に公平の評を下し得ぬ。心理上から見ても人は歐洲の良史を選述するものが出来さうもない同じ理由で英人の手に成つた獨佛の良史はないが、ヴェネチア、フィレンツェ、ビザンツ帝國の歴史は巧みにもされた。大思想は衷心から溢れ出るのである。

(補助學)爾余の人間に關する研究に同じく歴史學は種々の學問を參照せねばならぬ。政治地理上の研鑽には潛思して地理學を研究する必要がある、相依相從的要素の第二即ち商業工業等に關しては經濟學の原理に精通するものが要用である。第四の要素即ち人物に就ては系譜學の研究が大に有用である。第三の社會上に於ける男女の分限并に第二の要素に取りては法律の知識は避く可からざるものである。而して歴史のあらゆる局面に對して紀年學は事件の時間的繼續

17

共存に從ひて之が次序を定むるのである。その他古泉學 numismatics 印章學 sigillography 紋章學 heraldry 古文書學、碑銘學考古學言語學等歴史上の時期に應じて緩急はあるものの何れも史學の研究に必要である。但し經濟學法律學地理學考古學の成書を讀誦したのみでは一國の經濟上法律上美術上の發達の眞因を會得するとは出来ぬ。法廷で實際五十件も訴訟に携り若くば出來得可くんば議會で民法刑法に關連せる法案の議會に列席した人は單に法律書を繙くよりも史的研究に向て多大の利益を受くる。多數の學問に精通するは不可能であるが、法律學經濟學自然科學の原理の活知識即ち實物印象を受くるのは可能事で歴史家に取りては必要である。新聞記者經世家は法律問題經濟問題の活知識に富むので歴史を撰述するの良資格を具へてるピスマークが書齋的歴史家の著作を斥けて實際家の史籍を愛讀したのは當然のとで歴史を造り且つ著はしたチエール、ギゾー、マホン卿等の撰述を排斥するのは妄も亦極れり。チエールやルイ・ブロンの作には時に誤は謬もあらうが、ジイベル、アルフレッド・スタイン等の所謂歴史家の作よりは遙

五

エミール・ライヒ氏の歴史研究法に對する所見は以上の如くであるが、扱その史學史上に於ける位置は如何、是より簡單にこの點を説明しやうと思ふ。

歴史の目的は眞理なりとは西紀一七一九年から六一年までライプチヒ大學で法律學の講座を擔任して居た Maslov の常に口にする所であつたがこれ應て從來の傳説のその儘に信じ難いのを自覺した結果と認めねばならぬ。是より先西紀一六八一年には既に古文書學の鼻祖と云はるゝ佛人マビヨンが六冊の古文書學を公にして史料批判の原則を定めたが、爾來歴史研究法は次第に獨斷的舊態を脱却するになつた。併し言語學者エフ・アールフの西紀一七九五年に公にしたホーマーの研究の如きは極めて微に入り細を穿つたが要するに懷疑的であつて積極的研究法の確立せられたのは全く羅馬史の大家ニーパーの功に歸せざるを得ぬ。ニーパーの羅馬史三冊は西紀一八一一年から三二年迄に發行されたもので第一ポニエ役の終までを敍したるに過ぎぬか、言語學の素養深く政法學の見識

高い著者の手になつたが爲實に斯學研究法上に一生面を開いたのである。根本史料批判の方法はニーパー以來何等の進歩をも來さないとラムプレヒト教授の如きは斷言して憚らぬのである。ニーパーが新設の柏林大學で古代羅馬史の講義を初めて試みたのは西紀一八一〇年のとであるが、次で一一年から一三年迄に發行した羅馬史第一冊の序論のうちにその研究法の原理を發表した。次でランケ出で、西紀一八二四年に世に問ふた「羅馬獨逸民族史」の附録のうちに之に就て詳論した。爾來ランケを師として Monumenta Germaniae Historica の出版に與れる歴史家ワイツギ、ギゼブレヒト、ジール、ドロイゼン等の一派は殆んど獨逸の史界を風靡するとなつた。佛國のフュステル、ドクターランジツ、モノーソレル、フーセー英國のスタップス、ガーチナー、クレイトン、ベリー等もこの派に屬し前世紀の七十年代來は所謂柏林派の影響は祖國以外にも著るしく感ぜらるゝとなつた。佛國の文學史家ブリュヌチエールはローマンチズムは個人主義の頂點に達したものでコムトの實驗哲學はこれに對する反動の一產物である個人を以て哲學界批判の標準たらしめんとした拆衷派に對する反動である、社會主義も亦同時代の產

20 物に外ならぬが歴史も亦この反動の精神に左右され作者が我執僻見を避けて事實の真相を記さんとするに至つたと當時の歴史家の立脚地を説明してゐる。一體史學とは何であるか坪井博士の史學研究法には「過去の社會に於て人間がはたらき又考へた結果のあらはれ居る所のものを研究する學問である」と云ふて併し研究すると云ふても單に制度事件そのもの、存否を研究するのみでは不十分である正確なる史實を敘述するのみでは不十分である、その史實の意義を研究せねばならぬ。ベルンハイムが「史學とは人類が社會的動物として活動して發達せる事蹟に就き之が心理上有形上の因果的關係を研究し敘述するの學なり」と云ふたのはこの意義に明にしたものでこの研究を爲すには是非共想像の力を假らねばならぬ。事實は骸骨に過ぎぬ之に生命を與へ之が意義を明にするには想像を要する、如何に材料を蒐集し記録を涉獵しても之を解釋し説明するの技倆を缺く時は歴史家となるを得ぬ。然るに伯林派の末流は徒らに史實の存否を確むるとにのみ是れ汲々として史實に説明を下すことを怠るものが多い。抑も歴史の研究法には分拆的綜合的の兩方面があつて此兩方面を兼備せなければ完全なる歴史

史家となるとは出來ないのに伯林派の弊は得てこの分拆的方面にのみ踞踏し根本史料の言語學的批判を以て能事了れりとなすの傾向がある。所謂文明史家のうちで考古學的研究に満足せぬ人はかるが故に多くは伯林派の弊竇に陥ることを避けんとして綜合的方面の研究に重きを置いてゐる。西紀一九〇〇年來佛京巴里で發行する史的綜合雜誌 *Revue de synthese historique* は少くもその表題に於て伯林派に嫌焉たるの意志を發表してゐるのである。ニーバー以來分拆的研究が史學界を風靡すると百年以上に及んだ今日之が反動の將に盛ならんとするのは自然の數でエミール・ライヒ氏は即ちこの大勢の産物である。

21 エミール・ライヒ氏はその所謂研究法に冠らするに心理的と云ふ形容詞を以てした。而してライヒ氏は伯林派の研究法を語學的と評して之に對比してかく稱へたのである。併し心理的研究法と云ふ熟字そのものは唯物論的に社會を観察せんとした前世紀の思想に對する反動とも認めらるゝ。抑もコムトが西紀一八二二年に初めて使用した社會^{ソシヤル}學と云ふ文字をその實驗哲學のうち^{ソシヤル}に於て社會學と改め且之を動的靜的の二種に分てから動的社會現象たる歴史上の事實をも自

22 然科學の現象と同一様に研究せんとするの傾向を生じ、バックルの英國文明史(西紀一八五七年—六一年)の如き述作をも生ずると、なつた。之と相前後してロベルト・マイヤーのエネルギー不滅説、ダーウィンの進化論(西紀一八五九年)等自然科學に於て續々として新発見が公にせられたので、唯物論の勢力は益々加はり、心理學までも之が感化を受け、西紀一八七四年にはゾントの生理的心理學の發行を見るに至つた。茲に於てか心理學も亦自然科學的研究法によると、なつたので遂にゲインデルバントをして精神科學と自然科學とを對比せる從來の科學の分類を排斥して科學を自然科學と史的科學即ち法則的 *nomothetisch* 科學と事件的 *historisch* 科學とに別たしめ(西紀一八九四年)次でリッカートをして自然科學と人文科學即ち法則的科學と事實的科學とに別たしめた(西紀一八九九年)。この分類は歴史の上に及ぼせる個人の勢力を重んずる伯林派歴史家も亦賛成を表する所であつて、エッツァルト・マイヤーが普通教育上史學の必要缺く可からざるものなるを説いて史學には偶然事變と自由意志と云ふ二大要素があるこれは自然科學では到底學ぶとの出来ぬもので規則で律することは出来ぬが世界の實在界現實界

は之によりて支配されてると云ふたのは即ち同じ精神から出て居るの言である。史學の知識が規則的に統一することが出来ぬと云ふ點に就てはエミール・ライヒ氏も亦伯林派と同意見である。今日獨逸の學界でウインデルバント、リッカートの科學分類に反對の主張を持つてゐるのはラムプレヒト、ブライジヒ、バルト、テンニース等數人に過ぎぬ。實に或る意味から云へばこの科學の分類は自然科學の跋扈に對する反動であつた。

米國コロムビア大學の教授ギデングスがその著社會學原理(西紀一八九六年)に於て同類意識のことを盛んに説いたもスペンサーの社會學原理(西紀一八八五年—九六年)等に生物學的即ち自然科學的説明を主として加へようとしたのに對する心理學的反動である。伊國パドヴァ大學の教授ロリアが人間の行爲は利害にのみならずして信仰思想によりて左右されると云ふが信仰や思想も決して任意に起る現象ではない社會上の境遇の必然の產物であるから人間の行爲は信仰の直接の結果であると云ふのは取も直さず經濟上の狀態の結果であると云ふのであると云ふたのは(西紀一八九八年)クニース、ニッチ、ロッシヤ、シユモラー、ラムプレヒト

24 スチーダ等の經濟史家を輩出せしめた彼のカール・マルクスの唯物論的史觀に對し唯心論的攻撃の起るに際し之を辯駁した所の議論で社會的心理をも亦經濟上の原因に歸したのであるが、又一種の心理學的反動の現象である。併し唯物論的個人主義に對して最も早く反對を試みたのは民族心理學者で之が驍將たるスタインタールとラザールスは西紀一八六〇年から九〇年まで人種學言語學雜誌を董刊して民族精神の研究に従事した。ラムプレヒト教授の社會心理的史學も亦ギヂングスの同類意識論と同じく民族心理學の流を汲めるものであらう教授は文明史とは人類心的生活の歴史であると定義を下してゐる。エミール・ライヒ氏はマークス、ロリアと并べて教授を以て唯物論的史觀を固守せるものとして攻撃したが、獨逸中古經濟狀態(西紀一八八六年)を撰述した當年は卒ぎ知らず、現今では社會の進歩の程度の低い時に經濟上の事情の影響を歴史に及ぼすとは之を認むるものゝ進歩の程度の高い社會には他に有力なる要素の存することを説いてゐるのである。そは何れにせよエミール・ライヒ氏は民族精神とか社會心理とか云ふ熟字は之を用ゐず唯民衆心理民衆病理に就て一言してゐるのみであるが史實の研

究に當りて直接に正面より之を試みずして間接に心理的に相依相從關係を闡明せんと云ふのは民族心理學者並びにラムプレヒト教授とその揆を一にしてゐるのである。

六

25 翻て我史界は如何にと見るに大體から云へば記述的實用的の段階を経て今日批判的程度に達してゐることは明白の事實である。神話俗傳をその儘に文字に傳へた古事記、日本書紀、當時の實錄をその儘に蒐集した續日本紀以下の國史等は即ち記述的歴史で、その史體は後世まで衰へず、三鏡吾妻鏡等の鏡も歴史の實際を映寫したとの意味で般鑑にすると云ふ意味ではなかつたと云ふから勿論記述的歴史と見做す可きで、平家物語の如きも假令、祇園精舎の鐘の聲、娑羅雙樹の花の色、榮枯盛衰の理を説いてはゐるものゝそれは作者の人生觀を仄かしたまで、之を以て實用的歴史とは云へない。ところが支那では昔から歴史をも實用的學問としたので孔子の春秋は記述的ではあるが丘を知る者は春秋を以てし丘を罪する者も亦春秋を以てせんと云ふ意氣込で魯の史記を筆削した物であるから、大に實用

26 的意義を有して居つた少くも有して居るものと解釋せられた。五胡の石勒が播
崔澹を史學祭酒に任じたと云ふが、當時は無論實用的學問と見做されて居つたの
である。日本では桓武帝の大同三年二月(西紀八〇八年)に記傳博士を置き仁明帝
の承和元年四月(西紀八三四年)に之を廢したがその紀傳道とは歴史の學で舊例故
格を調査して政治に資すると云ふので實用上必要の學問であつた。承和に博士
を廢したと云ふのも學問を廢したのではなく文章博士に兼ねさせたのであつた。
遙かに降て徳川政府となつてから朱子學が大に用ゐられたが、この朱子學では歴
史は唯人身の品行行狀を修むる學問となつて勸善懲惡の實例を供給するものと
解されたので狹義の實用的に陥つたのである。司馬溫公の資治通鑑は等しく
實用的とは云へ、政治上の意味に重きを置いてあつたが、朱子の著なりと傳ふる趙
師淵の通鑑綱目に至つては道德上の勸善懲惡の趣意で編纂されたもので最も徳
川時代の學風に合つて居つた。

この朱子の性理學に反對して起つた批判的研究法は即ち清初の考證學であつた。
考證學を首唱したのは閻若璩康熙四十三年(西紀一七一〇)四月一六月卒年六十九)で以經解經と

27 云ふ主義で不通百經則不通一經と云ふ説を立てた。古い時代の文章は古い時代
の思想で解釋せなければならぬ、古い言葉の意味が明瞭でなければ古い時代の文
章は解せられぬ、秦漢以上の書物を悉く涉臘して言葉の意味に通曉せなければ一
部の經書にも通ずることが出來ぬから考證が必要であると云ふのであつた。こ
の新研究の朱子學の本壘に大恐慌を起さしめた一例を云ふと、論語の開卷第一に
子曰、學而時習之、不亦說乎と云ふ句がある。朱子は之を註して學之爲言、效也、人性
皆善、而覺有先後、後覺者必效先覺之所爲、乃可以明善而復其初也、と云ふてゐる。朱子
は即ち學を模倣の意に解してゐるのである。然るに考證學の方で云ふと學には所
動と能動との兩意義がある所動の場合には入聲でガクと發音し教へられて發覺
すると云ふ意味即ち覺也と昔しから訓してゐる通である。之に反して能動の場
合には去聲でコウと發音し人を教へて發覺せしむると云ふ意味となる。朱子が
この兩意義を混じて效也とした上に更に模倣と解釋したのは大なる誤謬である
と云ふので考證學の勢は實に凄しいものであつた。閻若璩の考證のうちで最も
有名なのは古文尙書二十五篇の偽作たるを論斷したことであつた。而してこの

28 考證學は應て史學に應用せられて王鳴盛(嘉慶二年^{西紀一七九七}十二月卒年七十八)錢大昕(嘉慶九年^{西紀一八〇四}十月卒年七十七)趙翼(嘉慶十九年^{西紀一八一四}卒年八十八)等の大家を出した。今三大家の研究法を比較して見ると二十二史考異は十七史商榷よりも根本史料考證に重きを置き二十二史劄記は寧ろ綜合的史論に長じてるやうである。併し何れも從來の史學の面目を一變せしめたのである。

日本にこの考證學の輸入されたのは古いことであるが幕末に際して博學の譽を贏ち得た安井息軒鹽谷宕陰等は何れもその恩澤に浴したのである。而して史學の方面では現今では所謂考證史家が全盛を極めて居るが一體日本で古文書を歴史研究の上に用ゐたのは淵源が極めて遠いのである。古文書を歴史に用ゐたからと云ふて必ずしも批判的に考證して從來の傳説を打破すると云ふのではないが、古文書の研究は勢ひ考證となるの傾を有つてゐる。それで古文書應用のことに先鞭を着けたのは古學を提唱したのと武士道の經書を著はしたとで有名な山鹿素行(西紀一六二二—一八五)である。其著武家事記の篇目中には特に古案の目を設けて織田豊臣徳川の古文書を以て其首に掲げ其他今川武田北條長尾毛利及び

29 雜家に分ち凡そ六百餘通の古文書を収録してある。元來武家事記とは假名交りを以て記せる日本の歴史で素行は實にこの書を編述するに當り以上の古文書を應用したのである。序文の日附によればこの書は延寶元年三月(西紀一六七三年)に脱稿したものと見える。その古學を提唱したことに考へ合せて見ると素行は眞理探究の念盛なる點に於て清朝の考證大家と比肩す可きものがあると思ふ。勿論是より先寛文四年(西紀一六六四年)幕府で本朝通鑑編輯を企てた時諸國の寺社又は在府の大名并に旗下の諸士に論して延喜以後公家武家の舊記を求められ同十年に脱稿した同書のうちには多少之を參考してゐるが素行が研究の如く古文書の應用を主とするものとは聊かその趣を異にしてゐる。稍下つて貝原益軒(西紀一六三〇—一七一一)の黒田家譜十六卷、田邊希文(西紀一六九二—一七七二)の伊達氏治家記録六十六卷等は何れも古文書を本として編纂したものであつた。扱降て明治になつて内閣に修史局を置かれ同九年より史料及編年史の改修に着手し十八年より諸州を巡回して史料を蒐集するとなつたが、是が當局者は何れも考證史家で批判的態度を以て俗傳を評隲し兒島高德の存在を否定し櫻井驛の逸事

30 を抹殺したのである。次で二十一年に修史局が帝國大學に移つて初めて國史料起り翌年より開講することゝなつたが間もなく史學會が設立せられた同十一月一日の第一會に會長重野博士ののべた演説のうちに史學家の心得として史通通釋の就證加按、朱子の據事直書の二句を掲げ事證に就て考案を下すは攻究法に實事を押へて有の儘に書すは編修法に屬すと云ふてる。この演説を掲げた史學會雜誌は翌十二月十五日に發行せられた。兎に角この雜誌が日本の史界を代表せるもので誌上の論文に考證的のもの多しとは誰も氣の附くことであらう。日本で古文書を研究し初めたは古い事で昨今はまた考證史家全盛の時代と云ふてよいが併し考證派の鋒先の甚だ鈍いと思はるゝことも少くない。神代史の如きはその最も甚しいもので例へば寶鏡開始章の如き神話として敬して遠けて置く可きであるのに史實と認めんとする歴史家がある。シカゴのドクトル・バックレーが説明したやうに須佐の男命は暴風雨を現はして八拳鬚胸先に至るまで啼きいさちき、その泣きたまふ状は青山を枯らし海河はことごとくに泣き乾しきと云ひ天照大御神の許に至らんとする時、山川とくくにとよみ國土

皆震りきと云ひ命の佩びたる劔より多紀理姬命多岐都姬命即ち急湍激流の神生れ出でたりと云ひ天照大御神のみつく田の阿を離ち溝を埋め亦その大嘗聞しめす殿に尿まり散しし爲め大御神は天の窟戸をたてゝさし籠り高天原皆暗く葦原中國悉く闇しと云ひ何れも暴風の現象と認められ得る。次に寶劔出現章に轉じて奇稻田姫を娶りしと云ひ初めて宮を造らんとする時その地より雲立ち騰りきと云ひ蛇を殺してその尾より得たる劔を天叢雲劔一名草薙劔と名けしと云ひ何れも素戔嗚尊の暴風雨なることを證するのである。また身一つに頭八つ尾八つありその身に蘿また檜生ひその長さ磐八谷峽八尾に度り年毎に來て乙女を喫ふと云ふ高志の八俣蛇とは川筋の蜿蜒として長蛇の如く枝流數ふるに違あらず沿岸樹木鬱蒼とし深潭激流時に溺死の慘禍を招く長江を形容したものと思はるゝ。素戔嗚尊が奇稻田姫を救ふたと云ふのはペルセウスがアンドロメダ姫を救ふたと云ふ希臘の神話と同じく解釋す可きので奇稻田姫を喫はんとした蛇は長江の靈で從來之に犠牲を供へ來つたのを廢することゝなつたその事實を示すのであらう。河伯に犠牲を供へることは仁徳天皇紀十一年にその實例があり同六

32 十七年には吉備の川島河に大なる虬みづちが有て行人を惱ましたと云ふ八俣蛇に似た話もある。要するに素戔嗚尊その人は歴史的人物であつたらうがその事蹟として傳へられてあることには神話としか解せられぬことが多いのに從來のそれらの研究が甚だ批判的でない。で日本の今日の史學界は所謂伯林派語學的研究に於ても史學家の事業が澤山残てるが併し史學の研究に従事するものはエミールライヒ氏の心理的研究法の如き方面にも注意せねばならぬ。徒らに考證にのみ耽てゐてはいけなひとは考證家自身のうちにも云ふてる人があるのであるからライヒ氏の研究法は必ずや我國の史學界でも充分に歡迎せられ分拆的と綜合的とを該ねた完全な批判的歴史の撰述を促すことであらう。(完結)

利潤分配制度論(續)

氣 賀 勘 重

四 實行方法

併し何れの理由に出づるにせよ此制度を實施するに際しては其實行方法に關して先づ確たる規定を設くるを必要とする五個の要件あり。

- (一) 利潤分配に参加せしむ可き労働者の各自具備するを必要とする條件
- (二) 企業家に對する利潤分配額と労働者全體に對する利潤分配額とを算定する方法

- (三) 各労働者の享受す可き分配額を算定する方法

- (四) 労働者の受く可き利潤分配の率額

- (五) 各労働者に歸す可き利潤分配金の使途

33 卽ち是なり。此等の諸點に關する規定如何は卽ち斯制の目的を達すると否との